



ランチセッション

山形発！私たち高校生が考えること・できること

- 担当：高校生グループ(山形県立山形東高等学校、九里学園高等学校、山形県立米沢興譲館高等学校)
- 協力者：三上英司(山形大学 地域教育学部 教授)、三澤香織(JICA 山形デスク)
- 分科会の狙い：山形から発信！高校生が考える国際交流や協力・多文化共生とは？学校で取り組んでいる探究活動をご紹介します。
- 参加者：自由参加

1. 内容と成果・結果

活動内容	詳細
ブリーフィング (三上)	三上先生から、参加者に向けてランチセッション実施にあたっての注意事項の説明が行われました。三上先生は沢山の方が集まる貴重な機会を利用して、自分たちが調べたこと、考えたことなど想いをしっかりと相手に伝えて欲しいと伝えました。
発表フェイズ 1回目(10分) 1. 3. 5グループ が発表 2回目(10分) 2. 4. 6グループ が発表 3回目(10分) 全グループが発表	 <p>テーマ「遊ぼう！学ぼう！広めよう！こどもが救う世界の飢餓」</p> <p>世界が抱える貧困問題の一つである飢餓を身近なものとして捉えてもらうために行った取り組みについて発表しました。グループでは『世界がもし100人の村だったら』という教材を利用して、小学生や中学生といった児童を対象にワークショップを開催しました。これからは、ワークショップに参加した児童たちに、この輪を広げていてもらいたいそうです。</p>
	 <p>テーマ「フェアトレードと倫理的消費～フェアトレードタウンを目指して～」</p> <p>フィリピンに短期留学したことで、現地の人々と交流して貧困の実態に触れる機会を得ました。そういった人々の暮らしの改善に、日本から貢献しようと考えようになりました。そこで、持続可能な地域の活性化と人と環境に配慮した倫理的消費行動を促進したいと考えて、フェアトレードの啓蒙活動とフェアトレードタウンへの課題について発表しました。</p>



テーマ「発展途上国に対するボランティア意識の向上」

発展途上国に対するボランティア意識をどのように向上させることができるかの視点から、意識調査結果を参考にしながら問題点を洗い出しました。そこから見えてきたのは「参加意欲はあるが、参加企画がない。ボランティアに関する情報が少ない」ことです。この問題点を解決するためにはどのような解決策があるのか、そして今後どのような活動をしていきたいのかを発表しました。



テーマ「米沢市の多文化共生の推進を目指して」

グローバルが進む米沢市において、外国人にとって住みやすい地域づくりが重要だと考えて、先輩の先行研究を踏まえて米沢市に在住する外国人の現状を調べたいと思いました。インタビュー調査を実施して、その結果について医療面・心の健康お面で外国人にとって住みやすい地域であるのか考察したものを発表しました。



テーマ「山形の山形を世界の山形へ」

2017年10月に、山形市は日本で初めて「ユネスコ創造都市ネットワーク映画部門」で加盟しました。ユネスコ創造都市推進事業を通じた山形と世界の繋がりについての紹介や、山形のみ旅行を映像を通して広めるために自分たちの作品を制作しました。このように「世界を知り、山形と世界を繋げ、山形を世界に広めるための取り組み」について発表しました。



テーマ「“ない”から“ある”を見つめる。ガーナの未来から考えたこと」

トビタテ留学 JAPAN の制度を利用して、ガーナへ留学しました。現地に行く「留学前」に考えていたこと、現地での活動のこと、さらに留学「後」に現地で得た学びについて紹介しました。これらの経験を経て自分の考えがどのように変わっていったのかを、自分の言葉で説明しこれからの目標についても発表しました。